

熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村別データベース(阿蘇市)

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
1	阿蘇市	(旧一の宮町)宮地	阿蘇の牛舞	あそのうまい	熊本県重要無形民俗文化財 昭和36年11月21日	不定期	不定	仮装した牛を中心にして、農耕作業の過程を表現する郷土芸能で、県下各地に分布する。阿蘇市一の宮町宮地に伝わる牛舞は三年続きの豊作の時、阿蘇家に奉納されてきたもの。10人の鎌を持った田夫が先頭に現れ、2人の胸中が入った牛に口取りと代かき男がついて続く。その後扇を手にした田植え女10人があてやかに登場。地方は大太鼓1、小太鼓2、笛3、三味線2人でにぎやかにはやしたてる。それに合わせて暮れまわる牛をうまく使いながら田起こし、代かきが行われ、男たちはあぜぬり、水口あつかい、苗配りなどの所作をし、女たちが田植え唄を唄いながら早苗を植える。ユーモラスな牛の動作と、方言まる出しのかけ合いの中に稲作の予祝行事は楽しく進行する。その他、牛舞は阿蘇市に多く、小国町江古尾のさなほりは座敷で行われ、球磨郡錦町一武では干ばつが続く時に、蚊帳で作った牛が鉦太鼓を打ち鳴らしながら村中を練り歩き雨乞いをする。【熊本県ありのままHP2005】 豊作を祈願する舞として、古くから伝わる芸能である。【2001】 《構成》牛(2人立)、牛の口取り1人、田かき1人、畦塗り10人、田植え女10人、大太鼓1人、小太鼓1人、笛3人、三味線2人。《特色》昔は春に豊作祈願、秋には豊年を祝って演じられた。内容は畦塗りから田植えまでの行程を模倣して演じる。【1991】				
2	阿蘇市	(旧一の宮町)荻の草	荻の草の瓢箪つき	おぎのくさのひょうたんつき	熊本県重要無形民俗文化財 昭和36年11月21日	3月21日 7月29日	荻草神社	荻の草の氏神社である権現社に奉納される。伝承によれば、荻の草は平家の落人部落である。その落人達が英彦山より権現を勧請して豊作と安産を祈願したことに始まったとされる。芸能の構成は、奉行、笛、大太鼓、鉦、薙刀、銅飯子、瓢箪つき、もらしてある。これらが道行きでは隊列を組み、広場では円陣を組んで踊る。踊の途中で瓢箪を縛りつけた竹竿を手にした瓢箪つきが踊手の中、あるいは円陣の外で踊って回る。瓢箪つきと呼ばれるゆえんである。なお、同系統の芸能として同郡小国町下城、南小国町中原、黒川にもみられる。【熊本県ありのままHP2005】 祭日は、春祭り、夏祭りがある。現在は行われていない。【2001】 《演目》道楽、宮廻り、庭楽(お伊勢踊り)、環道楽。《構成》薙刀4人、瓢箪つき8人、もらし8人、笛4人、大太鼓1人、鉦1人、銅拍子5人。【1991】				
3	阿蘇市	(旧阿蘇町)成川	成川の虎舞	なるかわのとらまい	熊本県重要無形民俗文化財 昭和36年11月21日	不定期		阿蘇谷独特の虎舞の一つ。阿蘇市では、竹原・蔵原・折戸・狩尾・永草も伝承している。笛・太鼓・三味線の囃子でにぎやかにはやしたてるが、元は旧正月の豊年祝いに行った。阿蘇神社の獅子舞に遠慮して、虎舞と称したといひ、虎そっくりの頭も伝わるが、現在は全て既製の獅子頭を用いており、芸態は2人立の獅子舞(1頭に2人入る)に変わらない。部落ごとに曲目や舞い方が異なるが、竹原などの2頭出て2段舞などの曲芸を見せるものとは違い、成川のは、一頭しか出ず、玉振りが持つ玉にじやれて飲みこむといった、写実的な演技の「玉取り」を代表曲とし、他に「テハ」「十禅寺」などと、男女がクワやコテを持って壁塗りのさまを見せる「壁塗り」の曲がある。【熊本県ありのままHP2005】 獅子の写実的演技に主点を置いた堅実な虎舞である。【2001】 《演目と構成》壁塗り(獅子が出ない)、出端、十禅寺、玉取り。 《特色》虎舞は実際には獅子舞だが、阿蘇神社に奉納される獅子舞に遠慮して虎舞と称するようになったという。昔は、豊年の翌正月に演じられる芸能であった。現在、阿蘇谷で六ヶ所演じられているが、いずれも獅子の出る演目と出ない演目の組み合わせで演じられている。成川では、獅子は一頭立てである。囃子は笛、大太鼓、小太鼓、三味線、鉦を用いる。【1991】				

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
4	阿蘇市	(旧阿蘇町)竹原	竹原の虎舞	たかわらのとらまい	熊本県重要無形民俗文化財 昭和61年1月14日	不定期		元来、獅子舞であるが、阿蘇地方では神前奉納の場合のみ獅子舞といい、その他は畏れ多いということで一般に虎舞と称する。その起源についての詳細は不明であるが、農業と密接なかわりがあることは確かである。阿蘇地域は、やせた火山灰土で、ただでさえ収穫量が少なく速霜、遅霜、風害等で豊作は長く続かず、数年に一度は凶作に襲われていた。阿蘇の虎舞はこうした厳しい生活の中で獲得した豊作への喜びの迸りであり、今年も豊作であるように、また来年の予祝も込め、阿蘇神社の祭事に田楽方が獅子舞を奉納していたのを真似て実施された農耕文化から産まれた芸能である。演目は神前奉納の舞と農家豊年祝福を融合したもので、中には曲芸的な要素の舞もある。演じる者も鑑賞するものも共に楽しむ中で、工夫改善され現在の姿になったと考えられる。狩尾地区内に三区の部落があるが、現在虎舞を実施しているのは三区のみである。実際は二区が盛んであったが衰退し、三区が地域興しの一環で伝承を復活させた。狩尾三区の虎舞は伝承復活において折戸虎舞保存会に指導を受けたため、演技もその流れを組む。地域にある産神社に奉納される。【熊本県ありのままHP2005】獅子が2頭で舞う曲芸的な演目である。【2001】		阿蘇町教育委員会 0967-32-1125		
5	阿蘇市	(旧阿蘇町)蔵原	蔵原の虎舞	くらばるのとらまい	熊本県重要無形民俗文化財 昭和61年1月14日	不定期		元来、獅子舞であるが、阿蘇地方では神前奉納の場合のみ獅子舞といい、その他は畏れ多いということで一般に虎舞と称する。その起源についての詳細は不明であるが、農業と密接なかわりがあることは確かである。阿蘇地域は、やせた火山灰土で、ただでさえ収穫量が少なく速霜、遅霜、風害等で豊作は長く続かず、数年に一度は凶作に襲われていた。阿蘇の虎舞はこうした厳しい生活の中で獲得した豊作への喜びの迸りであり、今年も豊作であるように、また来年の予祝も込め、阿蘇神社の祭事に田楽方が獅子舞を奉納していたのを真似て実施された農耕文化から産まれた芸能である。演目は神前奉納の舞と農家豊年祝福を融合したもので、中には曲芸的な要素の舞もある。演じる者も鑑賞するものも共に楽しむ中で、工夫改善され現在の姿になったと考えられる。蔵原の虎舞は、竹原の虎舞と同様、獅子が2頭であり、二段舞、三段つぎを行う。伝承自体も竹原と同じく活動を休止している。【熊本県ありのままHP2005】竹原の虎舞と同様、獅子2頭で行われる。【2001】《構成》《特色》【1991】				
6	阿蘇市	(旧阿蘇町)狩尾	狩尾の虎舞	かりおのとらまい	熊本県重要無形民俗文化財 昭和61年1月14日	不定期		元来、獅子舞であるが、阿蘇地方では神前奉納の場合のみ獅子舞といい、その他は畏れ多いということで一般に虎舞と称する。その起源についての詳細は不明であるが、農業と密接なかわりがあることは確かである。阿蘇地域は、やせた火山灰土で、ただでさえ収穫量が少なく速霜、遅霜、風害等で豊作は長く続かず、数年に一度は凶作に襲われていた。阿蘇の虎舞はこうした厳しい生活の中で獲得した豊作への喜びの迸りであり、今年も豊作であるように、また来年の予祝も込め、阿蘇神社の祭事に田楽方が獅子舞を奉納していたのを真似て実施された農耕文化から産まれた芸能である。演目は神前奉納の舞と農家豊年祝福を融合したもので、中には曲芸的な要素の舞もある。演じる者も鑑賞するものも共に楽しむ中で、工夫改善され現在の姿になったと考えられる。狩尾地区内に三区の部落があるが、現在虎舞を実施しているのは三区のみである。実際は二区が盛んであったが衰退し、三区が地域興しの一環で伝承を復活させた。狩尾三区の虎舞は伝承復活において折戸虎舞保存会に指導を受けたため、演技もその流れを組む。地域にある産神社に奉納される。【熊本県ありのままHP2005】産神社に奉納される。【2001】				

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
7	阿蘇市	(旧阿蘇町)折戸	折戸の虎舞	おりどのとらまい	熊本県重要無形民俗文化財 昭和61年1月14日	不定期		元来、獅子舞であるが、阿蘇地方では神前奉納の場合のみ獅子舞といい、その他は畏れ多いということで一般に虎舞と称する。その起源についての詳細は不明であるが、農業と密接なかわりがあることは確かである。阿蘇地域は、やせた火山灰土で、ただでさえ収穫量が少なく連霜、遅霜、風害等で豊作は長く続かず、数年に一度は凶作に襲われていた。阿蘇の虎舞はこうした厳しい生活の中で獲得した豊作への喜びの迸りであり、今年も豊作であるように、また来年の予祝も込め、阿蘇神社の祭事に田楽方が獅子舞を奉納していたのを真似て実施された農耕文化から産まれた芸能である。演目は神前奉納の舞と農家豊年祝福を融合したもので、中には曲芸的な要素の舞もある。演じる者も鑑賞するものも共に楽しむ中で、工夫改善され現在の姿になったと考えられる。折戸の虎舞は、虎の威圧感を売りに、曲芸的な二段舞、三段舞を演じることなく、盆まわし、珠とりと主体を置く。内牧菅原神社へ奉納している。【熊本県ありのままHP2005】 虎の威圧感を売りにしており、内牧菅原神社へ奉納している。 【2001】 《構成》《特色》【1991】				
8	阿蘇市	(旧阿蘇町)永草	永草の虎舞	ながくさのとらまい	熊本県重要無形民俗文化財 昭和61年1月14日	不定期		元来、獅子舞であるが、阿蘇地方では神前奉納の場合のみ獅子舞といい、その他は畏れ多いということで一般に虎舞と称する。その起源についての詳細は不明であるが、農業と密接なかわりがあることは確かである。阿蘇地域は、やせた火山灰土で、ただでさえ収穫量が少なく連霜、遅霜、風害等で豊作は長く続かず、数年に一度は凶作に襲われていた。阿蘇の虎舞はこうした厳しい生活の中で獲得した豊作への喜びの迸りであり、今年も豊作であるように、また来年の予祝も込め、阿蘇神社の祭事に田楽方が獅子舞を奉納していたのを真似て実施された農耕文化から産まれた芸能である。演目は神前奉納の舞と農家豊年祝福を融合したもので、中には曲芸的な要素の舞もある。演じる者も鑑賞するものも共に楽しむ中で、工夫改善され現在の姿になったと考えられる。永草の虎舞は、昭和52～56年度までの国庫補助事業による伝承活動保存事業において復活したが、平成に入ると次第に衰退し、伝承も途絶えていたが、近年地域の公民館落成に伴い活動を再開した。【熊本県ありのままHP2005】 近年、地域の公民館落成に伴い活動を再開した。【2001】				
9	阿蘇市	(旧阿蘇町)永草	永草の牛舞	ながくさのうしまい	阿蘇町無形民俗文化財 昭和54年8月1日	不定期		田植えが終わった後、さなぶり祝いに村中の人たちが集まって行われる。【2001】 《演目》田塗り、田かき、スッポリかつぎ、牛の鼻とり。《特色》牛は、箕またはショウケの裏側に紙を張り作る。畦塗りに田植えまでの様子を模して演じる。【1991】				
10	阿蘇市	(旧波野村)中江	波野村中江の岩戸神楽	なみのそんなかえのいわとかぐら	熊本県無形民俗文化財 昭和50年11月21日 国選択無形民俗文化財 昭和34年12月8日	4月20日 9月30日	神楽苑	中江の岩戸神楽は、日本の神話「天の岩戸」を題材に、今より約200年前の明和年間、豊後国大野郡合川の御国神社の神宮によって作られた。中江には弘化年間(1844～47)に伝えられたという。【熊本県ありのままHP2005】 4月～11月にかけ中江神楽殿において月1回の定期公演が開催されている。【2001】	【伝統芸能】 神楽	波野村教育委員会 0967(24)2642 JR豊肥線滝水駅下車徒歩25分		
11	阿蘇市	(旧波野村)波野	横堀の岩戸神楽		波野村無形民俗文化財 昭和55年3月26日	11月3日		起源は集落内の菅原神社への奉納神楽として発祥したとされている。【2001】	【伝統芸能】 神楽			

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
12	阿蘇市	一宮町宮地	柄漏流神事	えもりながしんじ		8月6日	田鶴原神社 ほか	午後7時頃、オンダ祭りの一の輿、二の輿の籠輿丁が集まり、田歌を歌いながら阿蘇神社に向かう。阿蘇神社の桜門に三の輿、四の輿の籠輿丁が待っており、合流して阿蘇家へ向かう。阿蘇家では「御所鶏」を歌う。その後、宮地町内を歌を歌って廻り、最後に阿蘇神社でウタイオサメを行う。この祭りは踏歌節会まで田歌を歌うことが禁じられる。祭りの名称はネムリナガシとも言ふ。【1991】				
13	阿蘇市	一宮町手野	ねむり流し神事	ねむりながしんじ		8月6日	国造神社	阿蘇神社の柄漏流と同じ日に行われる。御籠公民館に籠輿丁と合流し、国造神社で唄い納めをする。【1991】				
14	阿蘇市	波野村赤仁田	赤仁田の盆踊り			8月14日		【1991】				
15	阿蘇市	一の宮町宮地	阿蘇古代神楽			3月初卯～ 中卯 7月28日 9月25日他	阿蘇神社 他	《特色》阿蘇神社の卯の祭り、田作り祭り、御田植祭り、田実祭り、霜宮(阿蘇町)の火焚神事で舞われる神楽で、舞い、楽とも阿蘇神社の神官によって行われる。舞いは、一人を原則として畳二畳ぐらいの筵の上で、順逆に廻る。採りものは櫛、刀、おしきと変わるが、舞いそのものは変わらない。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
16	阿蘇市	一の宮町宮地	踏歌節会	とうかのせちえ		旧1月13日	阿蘇神社および阿蘇家	独特の節回し田歌響く拝殿。五穀豊穡などを願う田歌の歌い初めとなる踏歌節会。国指定重要無形民俗文化財「阿蘇の農耕祭事」の年頭行事で、旧暦の1月13日に毎年開かれる。7月の御田祭で神輿を担ぐ駕輿丁と、その日で作る御田歌保存会の計50人が、正月を祝う田歌の一節「正月殿」を披露。「しよーうーがーつー(正月)」などと母音を伸ばす独特の節回しが拝殿に響き、荘厳な雰囲気にも包まれた。宮司宅でも田歌「御所鶏」を唱和した。田歌は御田祭で歌われ、8月6日の柄漏流し神事が歌い納めとなる。3月1日は同市の国造神社でも田歌の歌い初めがある。【2010.2.27熊日】 《特色》この祭りは、7月行われる御田祭りで神輿を担ぐ駕輿丁が、阿蘇神社で阿蘇家で「正月殿」「御所鶏」の二曲の田歌を歌う祭りである。この祭りが済むまでは田歌を歌うことが禁じられており、ウタイハジメとも呼ばれている。【1991】				五穀豊穡
17	阿蘇市	一の宮町宮地	田作り祭り			3月卯の祭り期間中の巳の日から亥の日	阿蘇神社 他	作物演じ、豊作祈る。神職が農作業の過程を演じて五穀豊穡を祈る田作り神事。国の重要無形民俗文化財に指定された「阿蘇の農耕祭事」の田作り祭を締めくくる儀式。烏帽子に狩衣姿の神職らが、拝殿で田のあぜに見立てた青竹を飛び越え、あぜが頑丈にできているかを確認。穂が出る前の作物にふんした神職が、うずくまった状態から一気に起き上がり、作物が穂を出す様子を演じた。氏子ら50人が参列。【2014.3.18熊日】 《特色》この祭りは、本来阿蘇神社の祭りではなく、阿蘇神社の社家が祀る年禰神社の祭りであるという。巳の日に年禰神社の御神体(国龍神)を御輿に移した後、神輿は旧社家宅を一日ずつ泊まって廻る。社家の家では宅祭りが行われ、古代神楽が舞われる。申の日は、御前迎えの行事が行われる。この祭りは、吉松宮(阿蘇町赤水)から国龍神の花嫁神を迎える祭りで、花嫁神が阿蘇神社に到着したときには、氏子が火振りを行う。このあと阿蘇神社で御神婚の儀が行われる。亥の日は「祭りあげ」とよばれ、阿蘇神社で田作り神事が行われる。これは、神官達が一年間の農作業を模倣して演じるものである。この日には、阿蘇神社参道に農具市が立つ。【1991】				五穀豊穡

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願	
18	阿蘇市	一の宮町宮地	御田植神幸祭			7月28日	阿蘇神社	《特色》通常「オング祭り」と呼ばれるこの祭りは阿蘇神社の御祭神が社外に御神幸する唯一の祭りで、阿蘇神社の例大祭のなかでも最大の規模である。御神幸行列は、神社から一の仮屋、二の仮屋を廻り、神社に戻る。行列は、猿田彦一前駆神職一五色綱一金鷹一ウナリ14人一獅子舞(赤)一獅子頭(黒)一早乙女一田楽一大傘一大太鼓一田男人形一牛頭一田女人形一神馬一金幣一鉢一四の輿一三の輿一二の輿一一の輿一神官一宮司の順である。一の仮屋、二の仮屋では「田植え式」と呼ばれる行事があり神輿に早苗が投げ上げられる。一の仮屋の田植え式から神社に帰るまで田歌が歌われる。【1991】	【祭り】 祭礼				
19	阿蘇市	一の宮町手野	謡い初め			旧1月16日	国造神社	《特色》阿蘇神社の踏歌節会にあたる祭りで、国造神社の拝殿で「田の神」「正月殿」「楽納め」が歌われる。【1991】					
20	阿蘇市	一の宮町手野	御田祭り			7月26日	国造神社	おごそかな神幸行列が青田の間を練り歩いた。阿蘇を開拓した神々が神輿に乗って稲の生育状態を見て回る農耕祭事。神社で神事後、約70人の行列が約1キロ離れたお仮屋に向け出発。青空の下、白装束に身を包み頭上に神々への供え物を乗せた宇奈利や田男、田女らが太鼓やかねの音に合わせ、しずしずと歩いた。お仮屋に着き休憩した後、みこしを担ぐ駕輿丁たちが御田歌を奉納。参列者たちが神輿の上に稲の苗を投げる御田植式で作柄を占い、再び同神社まで行列した。御田祭は、7月28日、同市一の宮町宮地の阿蘇神社でもある。【2008.7.27熊日】 《特色》阿蘇神社のオング祭りの二日目に行われる。お仮屋は一カ所、お仮屋を出るときから田歌が歌われる。【1991】	【祭り】 祭礼				
21	阿蘇市	阿蘇町今町	三の宮の大祭			10月24日	三の宮神社	《構成》《特色》【1991】	祭礼 (神社行事)				
22	阿蘇市	阿蘇町乙姫	乙姫神社の春祭り			4月15日	乙姫神社	《構成》《特色》【1991】					
23	阿蘇市	阿蘇市一の宮町及び阿蘇市 市内	阿蘇の農耕祭事	あそのうこうさいじ	国指定無形民俗文化財昭和57年1月14日			古代から連続として続き、一の宮町に所在する阿蘇神社、国造神社には、全国にも類例のない農耕祭事が今もなお古式豊かに伝えられている。四季を通じ、収穫祈願から豊作感謝に至るまでの一連の農耕祭事が、風霜害防除の祭事までをも含んで、毎年執り行われる。阿蘇神社では、踏歌節会(とうかせちえ)、卯(う)の祭、田作り祭、風鎮祭、御田植神幸式、柄瀨流(えもりながし)神事、火焚(ひたき)の神事、田実神事が、国造神社では歌い初め祭、春祭、風宮祭、ねむり流し神事、田実祭が行われる。【熊本県ありのままHP2005】					
24	阿蘇市	小倉	小倉の虎舞	おくらのとらまい		1月1日 8月19日	小倉首原神社	虎舞は、小倉・西小倉地区に約400年続く伝統芸能。昭和30年代に担い手不足などで途絶えたが、舞や音楽を知る住民がいる間に引き継ごうと2006年10月に復活した。現在は、4～82歳までの42人の会員が伝統を守っている。この日は、大人の肩の上にもう一人乗り、さらに子どもを乗せる「三段継ぎ」に挑戦。小雪が舞い寒風が吹く中、高さ約4mの力強い人間の塔が出来上がると、集まった住人から大きな歓声が上がった。【2009.1.3熊日】 豊年を祝う郷土芸能。約400年前から伝わり、昭和30年代に途絶えていたものを46年ぶりに復活。【2005.9.19熊日】				五穀豊穣	

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願	
25	阿蘇市	一の宮町宮地	田実祭	たのみさい		9月25日	阿蘇神社	秋の実に感謝し、流鏝馬を奉納する。国の重要無形文化財阿蘇の農耕神事の一つ。五穀豊穡を異能春の田作り祭に始まり、夏の御田祭へ続き田実祭で締めくくる。拜殿で、収穫した新米を神前に供え神事。参道では11人が流鏝馬を披露。射手たちは烏帽子に直垂、毛皮の行脚姿で馬にまたがり、140メートルの参道を疾駆。馬上から3カ所の的を次々に射る。境内では御田祭でみこしをかつぐ駕輿丁たちによる「願の相撲」もある。翌26日は、「翌日祭」、金婚夫婦を招いての「金婚報告祭」がある。【2006.9.26.熊日】					
26	阿蘇市	波野檜木野地区	盆踊り	ぼんおどり		8月14日	初盆の家の庭先	檜木野地区に古くから伝わる盆踊りを区長ら有志が45年ぶりに復活。同地区の盆踊りは初盆を迎える家庭を回り、若精霊を楽しませ供養する習わし。波野では赤仁田などに同様の盆踊りが伝わる。幼い頃に踊った経験のある5人で、記憶をたよりに振り付けと「口説き」と呼ばれる唄を復活させた。盆踊りは、「ご免ください、この家の亭主…」で始まる「三ツ拍子」や「段七」など7種類。独特の節回しの「口説き」はややしに合わせ、扇子や竹の棒を振り回し、50分ほど踊り続ける。初盆を迎える家庭の庭先で踊る。保育園児から70代までのお年寄りが参加。【2006.8.13.熊日】					
27	阿蘇市	阿蘇市一の宮町	阿蘇神社 火振り神事	あそじんじゃひふりしんじ	国指定無形重要文化財	3月19日	阿蘇神社	農業の神、年祢神が結婚相手の姫神を迎え入れる際、地元の人々が松明をとめて歓迎したとされる昔話に由来。毎年、春の農作物の作付け前に行われる。たくさん収穫されるよう祈る意味もあり、国の指定を受けた重要無形文化財「阿蘇の農耕祭事」の一つ。約12km離れた阿蘇市赤水の吉松宮から姫神のご神体が神社に着くと、地元住民や観光客が約1千本のカヤ束の松明に火をつけ、振り回して出迎える。神社内では結婚の儀式もあり、その間も火振りは続く。【2013.3.20熊日】	【祭礼】 神社行事			五穀豊穡	
28	阿蘇市	湯浦	神楽			9月14日 9月15日	湯浦八幡宮	湯浦八幡宮の例大祭があり、同市波野の中江岩戸神楽保存会のメンバーら12人が、特設ステージで勇壮な神楽を奉納した。武神として知られる応神天皇を祭る同宮は平安時代の中期に創建されたとされ、昔から2日間にわたり計10時間を超える神楽が奉納されてきた。近年は、準備が大変なこともあり1年おきに行っている。初日はしめやかに神事が行われた後、赤や金のきらびやかな着物のメンバーらが、天児屋根命(あめのこやねのみこと)らのお面を付け、体全体をダイナミックに動かす「柴曳(しばひき)」や「五方礼始」など6演目を披露。【2013.9.16熊日】					
29	阿蘇市	狩尾地区	阿蘇の虎舞	あそのとらまい		11月23日	産神社	「どーきや、どーきや、どーきや」。虎をはやしたてる合の手が境内に響き渡る。静と動。虎が暴れ、きびきびとした動きで喜び、勇む。産神社の大祭に合わせ、毎年、子どもたちが舞を奉納する。1989年に保存会を立ち上げ、戦後途絶えていた虎舞の練習を再開。その2年後から奉納が続いている。父から子、孫へ。虎舞が3世代をつなぐ。【2009.12.19朝日】					